

## 第IV期 第2回 国立天文台科学戦略委員会議事抄録

日時：2024年11月20日（水） 13時00分～15時10分

場所：国立天文台大会議室、Zoom

出席者：

（台外）秋山正幸委員（Zoom）、高田昌広委員（Zoom）、高橋慶太郎委員、濤崎智佳委員（Zoom）、戸谷友則委員（Zoom）、堀田英之委員（Zoom）、渡邊誠一郎委員（Zoom）  
（台内）齋藤正雄委員、都丸隆行委員（Zoom）、竝木則行委員、藤井友香委員（副委員長）、本原顕太郎委員（委員長）、吉田道利委員

欠席者：

（台外）石原安野委員（Zoom）  
（台内）井口聖委員、生駒大洋委員

陪席：

（台内）藤田常事務部長、堀久仁子特任専門員、金子修研究推進課長、大内香織研究支援係長、飯田直人国際学術係長（Zoom）

### 1. 確認

#### 1.1 国立天文台科学戦略委員会名簿および出席者確認

出席者の確認を行った。

#### 1.2 第1回議事抄録の確認

10月23日に開催された第1回国立天文台科学戦略委委員会の議事抄録（案）について説明があり、一部修正のうえ承認された。

### 2. 報告と議論

#### 2.1 運営会議(2024/11/14)報告

11月14日に開催された第121回国立天文台運営会議での将来計画に関する議論について報告があった。また、サイエンスロードマップ策定委員会（以下、「SRM委員会」という）の設置について承認され、正式に発足したことが報告された。

（主な意見交換）

－運営会議報告の資料では、実施計画を策定する枠組みを科学戦略委員会で議論するとなっているが、実施計画には科学以外の色々な側面もあり、本委員会の範疇を超えているのではないかと。

－本委員会が枠組みを決めるということではなく、どのような枠組みが良いかを議論しご意見をいただきたいということである。

－実施計画の枠組み作りにコミュニティの意見を反映させることは非常に重要であり、コミュニティからの推薦を受けた委員が含まれる本委員会でもぜひ議論すべきである。

続いて、運営会議が決定した今期の科学戦略委員会への諮問事項、及びSRM委員会への諮問事項について説明があった。

(主な意見交換)

- ー科学戦略委員会への諮問事項が「サイエンスロードマップ策定に協力する」となっているが、策定主体はどこなのか。
- ーほぼ同じメンバーで構成されるため混乱するが、サイエンスロードマップの策定主体は SRM 委員会であり、科学戦略委員会は SRM 委員会の母体として協力する、という形をとっている。

## 2.2 SRM 委員会と科学戦略委員会の関係について

科学戦略委員会、SRM 委員会及び将来シンポジウム SOC の建付けとそれぞれの役割について説明があった。

## 2.3 国立天文台承継職員人件費について

(サイエンスロードマップ検討にあたっての参考情報として) 国立天文台における承継職員の人件費の分布について公開情報に基づき説明があった。なお、全てのプロジェクト等を網羅するものではないこと、研究教育職員に限定したデータであること、及び保険料や外国勤務に係る手当が含まれていないことの補足説明があった。

## 2.4 将来シンポジウム

### 2.4.1 LOI 分類の確認

本委員会においてメールベースで議論した LOI のカテゴリー分け、発表時間の割り当ての結果について説明があり、一部のカテゴリー名称を修正のうえ承認された。

### 2.4.2 プログラム案

将来シンポジウムのプログラム案について説明があり、案のとおり承認された。

続いて、各セッションの Chair について議論を行い、科学戦略委員会委員のうち現地参加できる委員で分担することとし、担当を決定した。

### 2.4.3 シンポジウム前の LOI 記述内容へのコメントについて

各委員に依頼した LOI へのコメントの作成状況について説明があり、早急にコメントの作成を完了し、各提案者へフィードバックすることとした。

(主な意見交換)

- ーコメントした委員の名前は伏せ匿名とする。プレゼンテーションをブラッシュアップしてもらうことを意図したコメントをお願いしたい。
- ー太陽の LOI が 3 件あり、連携や棲み分けがどのようになっているのかを問うコメントは問題無いか。
- ーむしろ書いてもらったほうがよい。そのような視点で見られていることが伝わることは大事であり、意見交換できればよい。

- －外部資金を獲得できれば望ましいが、基本的には運営費交付金で実施できればよい、という LOI が散見される。外部資金でどの部分を実施し、充当できない部分に運営費交付金をどれくらい欲しいのかを明確に書いてもらうようコメントしている。
- －国立天文台のリソースに関わる話として、提案書やプレゼンテーションでどこまで具体的な人員や予算の計画を出してもらうかの指針は設定するのか。サイエンスロードマップでは運営費交付金でサポートできる部分と、外部資金獲得の努力が必要な部分とが見える必要がある。
- －その点についてはこれまでの議論で結論に至っていない。実施計画を決める上で非常に重要な情報であるが、サイエンスロードマップの提案の時点でどこまで求めるかという点については議論が必要である。
- －サイエンスロードマップに載せる優先順位のためには必要な情報だが、発表までにそこを詰めるよう求めるのは厳しい。将来シンポジウムの最後に、提案書ではこういったものを整理して入れるよう提示し、それを踏まえて書いてもらうのがよい。
- －去年の試行では計画の規模感を把握できない提案書があった。将来シンポジウムで改めて注意喚起すべき。

#### 2.4.4 プレゼン資料の事前チェックについて

将来シンポジウムのプレゼン資料の事前チェックを実施するかについて SOC で議論し、今回は LOI の記述内容にコメントを返すこと、及び発表数が非常に多いという状況を考慮し、実施しないとの結論になったことの説明があり、承認された。

#### 2.4.5 シンポジウム終了後のコメントについて

今回の将来シンポジウムは提案書の間接発表の位置付けであるため、担当者を決めてシンポジウム終了後に各プレゼンテーションについてのコメントを返す必要があることの説明があった。

続いて、プレゼンの確認ポイントについて委員長が素案を作成し各委員の意見を確認のうえ決定することについて提案があり、合意された。

また、プレゼン資料は提案書で必須としている 10 項目を網羅したものを作成することを提案者へ依頼し、プレゼンで触れられなかった部分についてもシンポジウム終了後にコメントを返すこととした。

#### (主な意見交換)

- －発表時間が 10 分のグループは提案書の項目すべてについて話すことはできず、重きを置いて話す部分を分けなければならない。
- －確認ポイントは我々が重要だと考える部分である。最低限これは発表に含めるようにといった指針を与えなければ、提案者が大事と考えているところに時間を費やされてしまい、我々としての判断がしづらくなってしまう。
- －シンポジウムで完璧にチェックして良い提案書を提出してもらうことは困難である。プレゼンで説明しきれない項目については提案書が出てきた段階でチェックし、不足する部分の追記を求めるプロセスとするのがよい。

ー10 分間のプレゼンで説明できることは限られる。その後のヒアリングを考えると、触れられなかったことはヒアリングで説明してもらいたいとコメントしておく必要がある。

ー最初に提出してもらった提案書を完成度の高いものにするためには、シンポジウムでの発表においても提案書に記述することを一通りカバーしたプレゼン資料を用意してらうのが理想である。それに対して、この部分の記述が足りない、というフィードバックが出来るような形をとるのが良い。

ーこの項目についてはこういう状況のため書きづらい、といったコメントも付けてもらえれば、こちらから「こうしてください」と方向性を示すことができる。すべての項目を網羅してもらえれば提案書の質を上げるための有効なプロセスになる。

ーポイントは、提案書の内容に出来る限り良いフィードバックを提供すること、及び提案者に対して出来る限り負担をかけないことの2点である。この2つの視点に基づき提案書で必須とした10項目の検討状況を網羅したスライドを用意してもらおうよう依頼する。

#### 2.4.6 チェック・コメントの担当について

将来シンポジウム終了後のプレゼンへのチェック・コメントについて議論を行い、プレゼン資料の提出期限を12月9日、コメントの締め切りを12月17日とし、提案書の提出まで1カ月半の期間を設けることとした。また、コメントはSRM委員で作成することとした。

#### 2.5 SRM委員の担当LOI割り当てについて

##### 2.5.1 将来シンポジウムのプレゼンテーションへのコメント及び提案書ヒアリング担当

ヒアリングはSRM委員を2~3のグループに分けてそれぞれに担当するLOIを振り分けること、及び将来シンポジウムのプレゼンへのコメントは委員1人当たり9件程度を担当してもらおう形で進めたいとの提案があり、了承された。

また、プレゼンへのコメント担当の割り当ては委員長に一任し、ヒアリングへのコメント担当は次回のSRM委員会で検討することについて了承された。

#### (主な意見交換)

ー今回LOIへのコメントを返しているが、プレゼンへのコメントの時点では修正済みのLOIが提出されているのか。コメントした点が解決済みの前提で次のプレゼンへのコメントに進むのか、それとも改めてコメントする必要があるのか。

ーシンポジウム終了後にアップデートしたLOIとプレゼン資料の両方を提出してもらおうこととする。

ー以前から議論している「似たものをマージする」ことについてはどうするのか。現時点では具体的にこれとこれをマージすべきと判断することは難しい。ヒアリングなどを通じて議論を深め、ロードマップに載せる段階で調整する形になるのか。

ーそのように考えている。将来シンポジウムでの発表を受けたうえで、改めて議論することとしたい。

－電波関係ではかなり大きなプロジェクトが複数あり、それぞれが競合しているように見えるものがある。このような場合、SRM 委員会が優先順位を付ける形で進めるのか、それともコミュニティに戻して再度検討してもらうのか。

－運営会議でも指摘があったが、コミュニティと適切に連携して進める必要がある。何らかの形でコミュニティとインタラクションを取ることが求められていると認識している。

### 3. 今後の開催日程

今後の本委員会の開催日程について確認を行い、12月16日と1月21日に開催することを決定した。また、本原委員長から、2月以降はSRM 委員会による各グループへのヒアリングを中心に原則2回開催する予定である旨アナウンスがあった。

以上